



No. 3

## 並河正明

(会員 佐伯市常盤西町)

## 【解説】

▽薩軍・佐伯地方に侵入

五月十三日午前七時、警察署報じて曰く、昨夜重岡の仮分署賊徒の襲撃を受け、賊兵のため占領せらると、市民これを聞き大に驚き、勢いこの地に進まんこと必せりとなし、壮者は老幼を扶け、家財を収め、争うて難を附近の村浦に避け、満街寂々、一縷の炊煙登るを見ず。

▽浅間艦薩軍を砲撃

五月二十六日午前七時、海軍の浅間艦警を聞て守後浦

沖に來り、艇を下ろして水路を測量す、このとき賊兵数十名、塩浜（佐伯湾長島河口一帯）堤防下漢竹垣の蔭に埋伏し、艇の岸下に近づくを窺い、起て不意に射撃し水兵数名倒れたるが、死者わずか二名あり、よつて浅間艦ただちに砲門を開き、攻撃を開始す、この日浅間艦の砲撃は午前十時に始め、午後二時に至り止む。……

▽佐伯士族ら薩軍に徴用さる

…六月七日午前八時、薩軍の小隊長福田抱一・内藤無一らは残留士族や町内の主な商家を養賢寺に集めて、西郷拳兵の趣旨を説き、士族は従軍するよう、商人は軍資金を提供するよう勧誘した。…このとき薩軍と行動をとともにした佐伯士族は総数四十余人であったが、出発直後夫人の衣装をまとい逃れ帰つたもの数人があり、従軍したのは四十人。…以上「佐伯市史」抜粋

楠熊三郎は五月九日に巡査となつて重岡仮分署へ赴いたが、十二日には薩軍の襲撃を受け、藤丸警部以下十数人の巡査はそれぞれ重岡を脱出した。

楠熊三郎は十六日夕に佐伯へ戻り、梶川氏と共に蛇崎村に避難していたが、六月七日、佐伯士族六〇名程を集

めた養賢寺の集会で薩軍の勧誘を受け、熊三郎は同九日、薩軍の新奇隊へ入営した。

【本文】

同十三日 雨 小旧曆四月一日也

一昨夜云々、今日之処へ記スべし。

一薩州暴徒重岡辺へ被参、当区へモ可参モ／難斗趣

ニテ出入之者、荷物片付手伝／且又為見舞来ルモノ守

後浦山本／伊吉・同人母品・同人妹老人・坪根八十／

吉妻リキ・同人新宅ノモノ老人／池田村池田長藏／同

玉藏・同弥三郎／同村家僕徳藏父長五郎・戸穴村徳

藏／沖松浦加藤初藏・波越村小寺為二。

一荷物ハ池田村守後浦両所へ預ケル。

同十四日 曇

小旧十五日 雨

一薩徒乱入之程モ難斗二付、午後六時頃／於与祢・一

夫并ニ本家御姉様初五人／旧蛇崎村池田弥三郎方之新

宅、池田善次郎方へ為立退候。

一池田弥三郎・池田善次郎・池田玉藏等来テ／荷物等相

運ブ。

一守後山本宇三郎・同人兄席藏妻・山本伊吉母今朝来ル。

同十六日 晴

一午後六時頃、楠熊三郎殿派出先木浦／ヨリ帰村二付、

早刻池田村方へ報告イタシ／候。同人義ハ拙者方へ止

宿。

同十七日 曇

一午後一時ヨリ池田村池田弥三郎・池田長／五郎・池田

善治郎・肥川喜四郎方へ楠／熊三郎殿同道ニテ参ル。

熊三郎殿家僕／徳藏帰リ拙者方ハ善次郎方へ止宿。

同十八日 曇

一池田善次郎方ヨリ午前九時出立ニテ／帰村。帰り掛

富沢理平殿方へ参ル。

一午後六時頃、池田村矢次郎方へ熊三郎殿・徳藏共一同

参ル。

同十九日 晴

一滞在中。

一満江武殿御入来。

同 廿日 曇

一於与年事佐伯村宅へ参リ夕刻帰ル。

一松原格太郎殿ヨリ書状来。

同 廿一日 晴

四日

五日

六日

七日

八日

九日

一 楠熊三郎殿同道ニテ佐伯村へ、夕刻ノ池田村へ帰ル。  
但満江武殿方へ参。

一 三十小区副戸長甲斐補殿宅へ行、面会之上、月給・宿  
料・筆墨料受取之。

大五月廿二日 晴

小四月十日

一 未夕状静ト申ニハ無之候得共、追々ノ風聞之趣も有之。

且又数日逗留之事ニ付ノ一ト先帰宅可致ト罷三郎殿

へも談判ノ之上、本家不殘共一同池田村池田ノ善次郎

方引取申候。最道具類ハ預ケ置ノ当用之品物已持帰

リ、池田弥三郎方ノ池田長蔵方・肥川喜四郎方へ世話

ニ相成ノ候ニ付、帰村イタス旨申入、夫々挨拶及ノ舟

ニテ帰村ス。

一 楠熊三郎殿被参逗留中之挨拶有之。

一 満江武殿被参。

同廿三日 曇

十一日

同廿四日 晴

十二日

同廿五日 晴

十三日

一 薩人来ルニ付立退候。処、船場ニテ呼留ラレノ家内・

本家共帰宅、予斗池田村池田善次郎ノ方へ参ル。

一 官軍艦壹艘石間浦へ着、午前八時頃ノ大砲発ス。宅地

近へ弾丸来、本家々内於与年共一同池田善次郎方へ船  
ニテ立退キ。

一 予ハ木許源大夫殿方へ止宿ス。

大五月廿九日 晴

小旧四月十七日

一 池田村池田善次郎方へ行。

同 三十日 晴

十八日

一 官軍船石間浦へ参着。

同 三十一日 晴

十九日

一 薩兵来、佐伯村戦地ニも可相成候之ノ趣ニ付、残荷

物等取片付トシテ池田村ノより五名来ルニ付、片付

返ル。未明ニ予ノ罷三郎殿共池田村善次郎方へ参ル。

大六月一日 天氣○

小四月廿日也

一 官艦より大砲打。

一 取片付荒道具取片付へ佐伯村へ行、直様ノ引取。

同 二日 晴

廿一日

一 佐伯村宅へ行、道具類壹艘取越。

同 三日 晴

廿二日

一 右同断。

同 四日 晴

廿三日

一 佐伯村へ行、模様承合候。

立退候様<sup>たつし</sup>達二付、池田村へ木許／同船ニテ帰ル。

一 此日臼杵表戦争之由。

同日 十三日 晴夜雨

三日

同 五日 雨

廿四日

一 官軍佐伯村へ止宿。

一 佐伯村宅へ行。

同 十四日 曇午前十時晴

四日

同 六日 曇雨夕晴

廿五日

一 官軍出張所へ出頭候処、最早切畑村辺え／出立跡二付、

一 三十小区浦代浦用務所へ参、夜具モ余品々持帰ル。

居合之者へ問合之上、戸長吉垣／久助殿方へ参候処、

同 七日 晴

廿六日

留守故田崎廣衛殿へ／面会、同人へ手札相渡及依頼置

一 佐伯村へ行、在宅の士族六十名程養賢寺へ参会。

候。同道／杉原祐佐殿・下川富五郎殿・木許源太夫殿。

同 八日 曇

同 十五日 曇午前十時晴

五日

一 佐伯村へ行、薩兵旅宿行、面会／○○○

一 木立村棧敷永野久四郎方へ参り、貸付／金掩滞<sup>えんたい</sup>特促之

一 楠熊三郎殿新寄隊へ入ル。

事ム候得共出来不申／依之書入之田畑三ヶ所受取候。

六月 九日 雨

旧四月廿八日也

永代ニテ受取之処、歎願<sup>たんがん</sup>ニ付本年より三ヶ年／季ニ半

一 スイスル壺丁并附属機々共薩兵方へ／差出候。

作より直作之約定書モ通受／取り帰ル。同村角道ニテ

一 楠熊三郎殿新寄隊へ入営。

仮住居、永野茂樹殿・満江武殿方へ立寄。

同 十日 晴

廿九日

同 十六日 晴

六日

一 佐伯村へ行キ木許源太夫殿方へ同宿ス。

一 満江氏来ル。

同 十一日 雨旧

五月一日也

同 十八日 曇

八日

一 巡邏勤 二十名三番組 一昼夜持／潮谷寺長屋他所。

同 六月十九日 雨

旧五月九日也

一 官軍来ルニ付、佐伯村本営・切畑村本営／開キ候ニ付、

一 並河四郎殿被<sup>まら</sup>参候。

一 佐伯村仮用務所潮谷寺長屋へ出頭／廿七小区内池田村退居より帰宅致候段／戸長へ相届候上、帳面へ名前相

記候上／引取候。同伴木許源太夫殿。

一 木許源太夫殿方へ同居。

同 廿二日 雨

十日

一 官軍米其外早々旧米蔵へ運ブ。

一 午後三時頃池田村へ帰り止宿。

一 赤木戦争。

同 廿一日 雨

十一日

一 仁田原村辺戦争。

一 佐伯村へ帰ル。同道木許氏、同氏方へ同居。

一 上直見戦争。

同 廿二日 曇夜雨

十二日

一 一夜二入り池田村へ行き止宿、同道木許氏。

一 木許氏へ同居。

一 守後浦山本席蔵方貸附金掩滞特促トシテ／参ル趣ニテ

ヨ子木許氏へ立寄候得共、居合不／申対面セズ。

一 薩兵横川辺へ引候ヨシ。

同 廿三日 曇

十三日

一 木許源太夫殿方、池田村○居先ニテ男子出生／申来ル、

一 官軍佐伯村へ千五百名程参着。横川より引取由。

一 午後五時池田村へ帰り止宿、同伴木許氏。

一 スタレ山辺ニテ戦争。

同 廿四日 雨

十四日

一 佐伯村へ帰ル、木許氏へ宿ス。尤 德蔵召連レ／用便イ

一 此日佐伯村へ引取之官軍之内、蒸氣／船へ乗組、日向へ向ケ出航之由。

一 佐伯村へ帰り木許氏へ止宿ス。

一 仁田原村辺戦争。

同 廿五日 晴

十五日

一 仁田原村辺戦争。

同 廿六日 雨

十六日

一 仁田原村辺戦争。

同 廿七日 雨

十七日

同 廿八日 曇

十八日

一 守後浦より家内帰ル。木許へ立ヨリ直様池田村へ帰ル。

同 廿九日 晴

十九日

同人帰村ニ付、同道ニテ予モ帰り池田村へ止宿。

六月三十日 晴

旧五月廿日ナリ